すぎく

平成３１年１月３１日

No.４７２

杉並区立杉並第九小学校だより

「～杉九ミュージアム～」

校長　工藤康男

１月１８日（金）と１９日（土）に実施した展覧会に多くの御来賓・地域・保護者の皆様に御参観いただき、誠にありがとうございました。

玄関や渡り廊下に展示された「すぎ九小のようせいたち」（１・２年生共同作品）に案内されて会場に入ると、体育館いっぱいに展示された子供たちの個性あふれる作品は、まさに「杉九ミュージアム」でした。その空間は、普段の学校の様子とは違い、ＢＧＭが流れ、静寂で時間がとてもゆっくり流れる、まさに美術館のようでした。

会場に入ると、「もりもり！スペシャルパフェ」が右手に見え、フルーツやチョコレートの１年生の作品が出迎えてくれました。２年生の「線からまちへ」は、自分で想像して住みたいまちを描きました。３年生は「ラーメンを食べているわたし、ぼく」で、おいしそうにラーメンを食べている顔が、とても素晴らしかったです。４年生は立体の「世界に一匹だけの魚」を展示しましたが、かわいい魚、強そうな魚、きれいな魚、おもしろい魚など、子供たちの個性が表れていました。５年生は共同作品の「糸のこでＴｒｅｅ」で友達と力を合わせて不思議な形の「Ｔｒｅｅ」を組み立てました。６年生は家庭科の作品で「作って使おう　マイバッグ」を作り、世界でたった一つのオリジナルバッグを完成させました。丁寧に心をこめて想いを形にした作品は、観ている人に感動を与えてくれました。

さて、作品を創るには、よく感性が必要だと言われます。感性とは「物事を心に深く感じ取るはたらき」あるいは「外界からの刺激を受け止める感覚的能力」です。視覚と聴覚から得る情報がメインになりがちですが、その場の触覚、嗅覚、味覚も総動員して、さらに頭にうかんだ「考え」や「想い」までも含めて自分で感じ取ることが必要です。

具体的に、現在、校長室に杉九小で採れた夏みかんがあります。その夏ミカンを描こうとするときには、まず、たくさんの角度から夏みかんを観察しなければなりません。そのことも大切ですが夏みかんを何度も手で触ることによって、脳が立体的構造をイメージします。また、匂いを嗅ぐことや食べることによって、酸味をどのように絵画に表すかを脳が工夫します。さらに、この夏ミカンは、とってから何日経っているのか、どのような環境で育っていたのかなどを考えることも、絵を描く上で大切なことかも知れません。

感性はあるないではなく、磨かれることで高まっていくもので、本物に出会う体験が大切です。

今後も杉九小の教育活動を通じて「杉九ミュージアム」のような、本物に出会う体験の機会を増やしていきたいと思います。

２月の生活目標

寒さにまけずにがんばろう

２月４日は立春です。暦の上では春ですが寒さの本番はこれからです。次のことに気を付けて、寒さにまけず、元気な体をつくりましょう。

- 早寝早起きで疲れをためない。
- 外で元気に体を動かす。
- 手洗い・うがいで病気の予防
- 好き嫌いしないでなんでも食べる。
- 朝ごはんはしっかり食べる。

研究の窓

今年度の研究授業を終えて

１２月までで、主体的・対話的で深い学び（児童が既習事項や経験を基に自分の考えをもち、それを進んで交流し、高めたり深めたりしてこうとする授業）を目指した、各学年の研究授業を終えました。３学期は今年度の研究のまとめを進めています。

各学年が工夫した指導法を振り返り、その成果や課題を整理して、今後の指導に生かすための手立てを考えます。また、来年度の研究主題など、校内研究の方向を決め、さらなる授業改善法を探っていきます。